

米山から世界の町へ⑦ ナイジェリア・ラゴス

— 南西部ベニン湾岸に位置し、国内最大の港湾施設を備えており、アフリカ最大級の人口を持つ都市です。



米山奨学生・米山学友の近況を、その故郷や、いま暮らしている町とともに紹介するシリーズです。今回の紹介者は……

東芝三菱電機産業システム株式会社
ドライブシステム部 (工学博士)

エコング, ウフォート・ウフォート さん
(ナイジェリア / 2013 - 14 / 茅ヶ崎中央 R C)

「Hi, everyone !」

ナイジェリアから来たエコングです。ナイジェリアは長くイギリスの植民地だったため、今も公用語は英語。学校教育も全て英語で行われています。人口は2億100万人を超え世界第7位、しかも人口の約50%は25歳以下と、若いエネルギーにあふれています。国土は日本の約2.5倍。また、世界でも類いまれな多民族国家で、民族が異なれば、食べ物も服装も宗教も言語も異なります。歴史上、国内の民族紛争が絶えない半面、多様性が強みでもあります。各地に独自の祭りや建物があ、ナイジェリア人ですら、国内各地を観光しようとすれば、数年間は必要だといわれます。

私の生まれ育ったラゴス州ラゴスはかつての首都で、今も経済・文化の中心であり、アフリカ最大級の都市です。お勧めの場所は、レッキ・コンサベーションセンター。ここはNGO団体による自然保護公園で、多種多様な野生の動植物が観察できます。公園内にはつり橋もあり、ちょっとした冒険気分を味わえます。国立芸術劇場は1977年の建設、ラゴスで見るべき五大建築物の一つとされています。第1次軍事政権時代に建てられたため、軍人の帽子に似た外観で、美術品や芸術品の展示、ホール、映画館、ショッピングモールを備えています。ぜひ食べていただきたいのはジョロフライスです。

トマト風味のスパイシーな炊き込みご飯で、ピラフのようにしっかりと味が染み込んだ、西アフリカでは定番の米料理です。



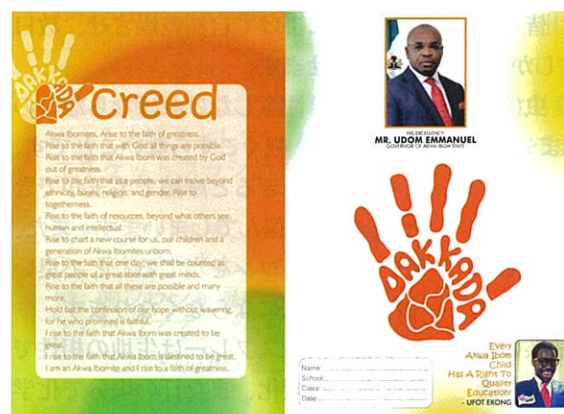
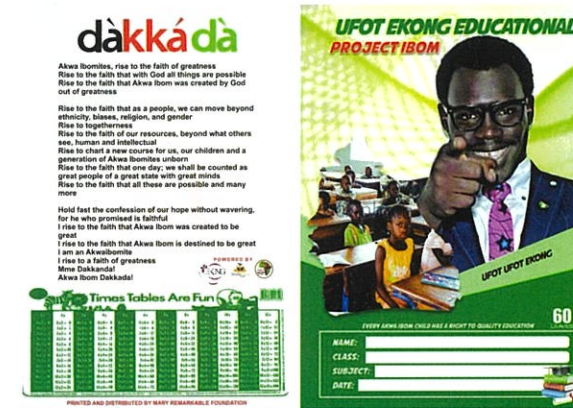
写真左上：西アフリカで最も一般的な葉野菜アファングを使ったスープは人気の一品。右上：定番のジョロフライス。右：レッキ・コンサベーションセンターでは、日本では見られない野生動物たちと出合えるかも



第1次軍政時代の1977年に建てられ、軍人の帽子のような外観をした国立芸術劇場

私は東海大学大学院博士課程で電気工学を学び、卒業後、日本で就職しました。現在は東京都内で暮らしていますが、母国への思いは常に忘れていません。近年、ナイジェリアは人口が増え、同時に学校に通えない子どもが急増しています。義務教育の無償化といった対策は講じられていますが、貧しい家庭では教科書や文具、制服代が払えず、結果、学校に通わせることができません。

そこで、私の民族にゆかりのあるアクワイボム州の高校生に、毎年、ノート1万冊を贈る活動を始めました。打ち合わせで現地教育管理機関を訪れた際、茅ヶ崎中央ロータリークラブ(RC)からもらった「END POLIO NOW」のバッジを着けていました。



「君、そのバッジはロータリーの？」
偶然にも、その担当者がロータリアンで、接点できたことで意気投合し、地元のクラブの例会に参加し、ノート配布のためにトラックを無償で手配してくれるといった協力が得られました。
米山学友となった今、世界各地でロータリアンが大きく社会に貢献していることを、より実感しています。父を早く亡くした私は、奨学生時代にお世話になった茅ヶ崎中央RCの皆さんから、父のような温かさを感じていました。ロータリアンに出会ったおかげで、私は社会貢献の重要性を深く考えられる人生を歩んでいます。いつか私も、ロータリアンになりたいと思っています。

写真右上と左上：高校生たちに贈ったノートの表紙。右：支援した高校の生徒たちと一緒に



※米山記念奨学事業、または「よねやまだより」へのお問い合わせは、(公財)ロータリー米山記念奨学会まで
Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281 Eメール : mail@rotary-yoneyama.or.jp